

来るべき世界 (1936)

THINGS' TO COME

メディア 映画
ジャンル SF
製作国 イギリス
色彩 B&W
時間 93分
初公開日 1936/09
公開情報 UA

【解説】

H・G・ウェルズが自ら脚本化した近未来小説を、スペクタクルやファンタジーはおハコのA・コルダが製作したSF映画の古典。'40年（奇しくもナチ侵攻の翌年）、英国の架空都市エヴリタウンが突然敵機の襲撃を受け、以来20年の戦争が続き、町は独裁者の支配下となる。だが、その体制も自由都市の支援攻撃で滅び、伝染病の猛威などを乗り越え、エヴリタウンは超近未来都市を地下に建設。人々の生活は極めて合理的になるが、今度は旧体制の残党がそれに反発し……。色々あっても、科学の進化に肯定的であらざるを得ないのは、現代でも同じだが、月ロケットの発進を眺めながら、未来を信じようというフィナーレが、やはりこそばゆい。しかし、ウェルズの予見の正解率はかなり高い。未来都市のセットはその後のこの種の作品全てのお手本。

【クレジット】

監督	ウィリアム・キャメロン・メンジース	William Cameron Menzies
製作	アレクサンダー・コルダ	Alexander Korda
原作	H・G・ウェルズ	H.G. Wells
脚本	H・G・ウェルズ	H.G. Wells
	ラホス・ビロ	Lajos Biro
撮影	ジョージ・ペリナル	Georges Perinal
特撮	ネッド・マン	
	エドワード・コーエン	Edward Cohen
音楽	ミュア・マシーソン	Muir Mathieson
出演	レイモンド・マッセイ	Raymond Massey
	セドリック・ハードウィック	Cedric Hardwicke
	マーガレット・スコット	Margaretta Scott
	ラルフ・リチャードソン	Ralph Richardson
	アン・トッド	Ann Todd